

令和 5 年 5 月 10 日現在

機関番号：15301  
 研究種目：基盤研究(C)（一般）  
 研究期間：2017～2022  
 課題番号：17K02169  
 研究課題名（和文）ライプニッツ存在論の研究：生物、時間、経済を焦点に

研究課題名（英文）Leibniz's Ontology: biology, time and economy

## 研究代表者

松田 毅（Matsuda, Tsuyoshi）

岡山大学・社会文化科学研究科・客員研究員

研究者番号：70222304

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：ライプニッツの生物哲学、時間論、経済思想に着目した存在論の問題について、この間の研究成果を活かし、組み込んだかたちで『夢と虹の存在論 身体・時間・現実を生きる』のような少し高度な一般書を出版したほか、国内外の学術誌に論文が掲載され、報告も行った。また、関連するラテン語著作の日本語初訳も刊行した。さらに、副産物として明治期のライプニッツの自然神学の受容の一断面を示すこともできた。ライプニッツのモナドロジーの存在論の歴史的な文脈を解きほぐすと同時に、その現代的な可能性を解釈することを通して、我が国におけるライプニッツ哲学研究の発展に資することができた。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

いまだに一般には数学者ないし「予定調和の形而上学者」としてしか認知されていない、ライプニッツの生物哲学、時間論、経済思想に着目した存在論の問題について、研究成果を活かし、組み込み『夢と虹の存在論 身体・時間・現実を生きる』のような一般書を出版したほか、学術誌での専門的な論文だけでなく、日本近代の南方熊楠によるライプニッツの自然神学の受容の一断面を著名な商業誌で発表し、広く示すこともできた。ライプニッツのモナドロジーの歴史的な解明と現代的な解釈を通して、我が国のライプニッツ哲学の認知を高めた。

研究成果の概要（英文）： As a result of the research hitherto, besides the book publication for the public, such as Ontology of Dream and Rainbow, living body, time and reality, several papers about the topics of biology, time and the economy in Leibniz have been printed in the national- and international journals for philosophy during this period. And the almost the same number of the presentations about these topics have been done in the international conferences as well as in those in Japan. In addition, a Japanese translation of original Latin about medical text written by Leibniz was published for the first time. These activities surely contribute to Leibniz study both in explicating the historical contexts and in interpreting the actuality of Leibniz's philosophy.

研究分野：哲学

キーワード：哲学 ライプニッツ 存在論 生物 時間 経済

### 1. 研究開始当初の背景

没後 300 年を経て、ライプニッツ哲学、特にその生物学、時間論、経済思想に着目し、その存在論的問題を解明する背景のひとつに、近年のライプニッツ研究でライプニッツの生物学・生命論に関する優れた研究書が相次いで出版された国際状況があった。研究代表者も科研費「ライプニッツの生物学と生命の哲学の研究」(平成 25～28 年度)を通して、特にライプニッツの「生物哲学」の歴史的位置づけと現代的評価を行ったので、その成果をさらに発展させ、存在論的問題の探究を行うことが課題になった。また、物理学分野では蓄積のある「時間論」の「進化」思想的展開と未開拓の「経済思想」を焦点に、ライプニッツのモノドロジーの存在論の歴史的文脈を解きほぐすと同時に、その現代的可能性を解釈することを通じて、我が国におけるライプニッツ哲学研究の発展に資することが求められていた。

### 2. 研究の目的

目的は、以下の三点にある。

第一に、近年盛んになったライプニッツの生物学・生命論研究の成果を発展させ、存在論的問題の探究を行うこと。特に、生物哲学の観点から「時間論」と「経済思想」に焦点を当てる。

第二に、ライプニッツの生物哲学に関する研究を代表者のライプニッツ研究の蓄積、特にその存在論の研究成果と統合し、「モノド」の存在論を生物、時間、経済の観点から再解釈することを通して、ライプニッツ研究の新しい地平を切り開くこと。「モノドの存在」を、「部分と全体」の関係の観点から、生物、時間、経済の諸相で解明し、「モノド」の存在論のダイナミズムをよりいっそう具体的に把握すること。

第三に、2016 年に没後 300 年を迎え、20 世紀初頭の「ライプニッツ・ルネサンス」からも 100 年以上が経過し、全集も 1690 年までの哲学関連遺稿が出版された現在、ライプニッツ哲学研究を一度、総括的に評価するべき段階に来ていることを指摘し、これまでの研究史の総括を行うと同時に、生物、時間、経済の諸相からモノドの存在論、特にその「個性と関係性」の存在論的問題を解明すること。

### 3. 研究の方法

研究は三段階を設け、順次、重点を移動させながら研究する。全体は以下の図のようにイメージされる。最終的には生物、時間、経済の諸相からモノドの存在論の「個性と関係性」の解明へと研究を収斂させる。その全体を通じてライプニッツの存在論の関係主義的解釈を試みる。

[1]ライプニッツの生物哲学と存在論の研究：歴史的な文脈と関係主義的解釈

[2]ライプニッツの時間論の研究：生物哲学と不可識別者同一の原理の存在論

[3]ライプニッツの経済思想の存在論的研究：「モノド」の個性と社会性の解明

このような段階設定によって、ライプニッツの存在論の文献的・歴史的研究とそれに関連する現代の生物哲学、時間論、経済思想との比較考察を行う。また、従来の研究史を総括しながら、二つのタイプの研究を結合し、ライプニッツの存在論の再検討に統合する。

[1]	生物哲学と存在論	文献資料からの歴史的な文脈の解明 17 世紀・“perichôresis”・「形成力」	生物存在からライプニッツの存在論 の <b>関係主義的側面を解釈する</b>
-----	----------	--	---

[2]	時間論の研究	生物哲学からの時間の哲学の展開 物理学・「進化」・微小表象	「不可識別者同一」の原理から「自然の存在論」を明らかにする
[3]	経済思想の存在論	「モナド」の存在論の具体化 時間的弁神論・迂回・社会倫理	モナドの個体性と社会性を解明し、 ライプニッツ研究を総括・評価する

#### 4. 研究成果

企画段階から進行まで依頼された、大会シンポジウムの後に、その論文として執筆され、『西日本哲学年報』30号に掲載された「エニグマとしてのモナド」では、ラッセルの場合の、モナドを物体から完全に分離するような、古典的モナド解釈を Arthur の最近の研究書にも触れながら、ライプニッツのデ・フォルダー宛書簡での論証に基づき、批判した。そのうえで、この「物体に内在するモナド」をライプニッツが言及した、アン・コンウェイの「モナド」概念との比較も含めて見直すために、モナド概念の歴史的起源と現代的位置づけに迫った。この点は、さらに、ボイル、ファン・ヘルモントらの繋がりを通して解明できるものと考えている。

また、前年度にオンラインの国際学会で報告した“Origins” of time in Leibniz from his letters to De Volder” を発展させ、「時間の「起源」 ライプニッツのデ・フォルダー宛書簡から」として発表した。この論文では「連続体合成の迷宮」の存在論的解消と「神の全知」や弁神論で問題となる「予知」をめぐる、初期近世の自然神学の論争的な文脈を踏まえながら、ライプニッツに直近する、デカルトやスピノザからスアレスやスコトスなどに遡る「優勝性」の概念、特に個体の eminent な存在に関する、神の全知を基盤とした、ライプニッツの時間論を浮き彫りにした。

7月にミュンヘン大学神学部に招待された機会に、Bayerische Akademie で開催された Leibniz-Pionier der Ökumene in neuem Licht の会議で“Analogical Theology or Minakata’s Buddhist Interpretation of Leibniz’s God” と題して、ライプニッツの自然神学の受容を近代日本仏教の文脈で行ったが、その後、その会議で示唆された後期スコラ哲学とライプニッツの神学との関連への関心を発展させ「中間知」の理論で知られる Luis de Molina とライプニッツの関係を「二重化された様相論」として探究した。これを論じる“Duplicated Modalities in Leibnizian Theodicy as an Application of Analogical Thinking” を2023年夏に開催予定の第11回国際ライプニッツ学会で報告する（原稿は送付済み）。

なお、代表者が発案し、編者の一人である『3STEP シリーズ 応用哲学』共編著（松田毅・藤木篤・新川拓哉）昭和堂（2023年近刊）は、入門的な著作ではあるが、「システム」の章の分担執筆も行い、経済活動に関する環境の諸制約の問題と「脱成長」理論のシステム論的基礎を論じている。脱成長論の背景にあるシステム論的視点は、ライプニッツのモナド論が含む「最適性」を鍵とする、経済哲学的展開であると見なせる。

さらに依頼されて、『啓蒙思想の百科事典』啓蒙思想の百科事典編集委員会編、丸善出版2023年では「ライプニッツ」の箇所を分担した。紙幅は少ないが、ライプニッツの実践的かつ生得的な「知性の光」が、ルソーらに受け継がれている点を示唆した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 松田毅	4. 巻 22
2. 論文標題 時間の「起源」 ライブニッツのデ・フォルダー宛書簡から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化共生学研究	6. 最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/64335	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松田毅	4. 巻 30
2. 論文標題 エニグマとしてのモナド	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西日本哲学年報	6. 最初と最後の頁 21-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松田毅	4. 巻 49
2. 論文標題 ライブニッツの疾病論 「水力・空気・火力の機械」の機能不全	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神戸大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/81013088	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松田毅	4. 巻 なし
2. 論文標題 初期近世哲学の情念論へ 怒りを例に考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 哲学的エッセイ集 石川徹先生退職記念誌	6. 最初と最後の頁 108-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田毅	4. 巻 -
2. 論文標題 The Gradation of the Causation and the Responsibility focusing on "Omission"	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Risks and Regulation of New Technologies	6. 最初と最後の頁 19-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田毅	4. 巻 31
2. 論文標題 現実の現実性 (承前・完結) 「唯一の世界」の存在論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知	6. 最初と最後の頁 2-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田毅	4. 巻 11月臨時創刊号
2. 論文標題 不可得の論理: アナロジーか即非か 鈴木大拙と南方熊楠の往復書簡	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 282-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田毅	4. 巻 14
2. 論文標題 新型コロナウイルスをめぐる公衆衛生倫理の問題 科学技術倫理の観点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 倫理創成研究	6. 最初と最後の頁 30-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81012728	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda Tsuyoshi	4. 巻 66
2. 論文標題 Substantial Form and Atomism From Leibniz 's remarks about Cordemoy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Review Roumania Philosophie	6. 最初と最後の頁 177-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田毅	4. 巻 47
2. 論文標題 ライプニッツの時間論 「現実的時間の関係主義」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81012053	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田毅	4. 巻 31
2. 論文標題 現実の現実性(承前・完結) 「唯一の世界」の存在論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田毅	4. 巻 28
2. 論文標題 「デモクラシー」を論じる: プラトン『国家』の解釈をめぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アルケー』	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田毅	4. 巻 26
2. 論文標題 二つの形成的自然 カドワースとライプニッツの差異	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西日本哲学年報	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34326/pawj.26.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田毅	4. 巻 5
2. 論文標題 ライプニッツの経済哲学試論 自然と規範	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ライプニッツ研究	6. 最初と最後の頁 119-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田毅	4. 巻 46
2. 論文標題 南方熊楠の自然神学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神戸大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81011594	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 MATSUDA Tsuyoshi	4. 巻 12
2. 論文標題 Radical democracy and environmental policy in Japanese context from the viewpoint of philosophy of social capital	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倫理創成研究	6. 最初と最後の頁 68-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81011216	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuda, Tsuyoshi	4. 巻 Special Issue
2. 論文標題 Leibnizian naturalism seen from his reception of Anaxagoras' s perichoresis	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Journal of Philosophical Ideas	6. 最初と最後の頁 395-419
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15750/chss.65s.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田 毅	4. 巻 45
2. 論文標題 生命は実体か属性か ライプニッツの生命論あるいは「水力・空気・火力の機械」としての生物	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 93-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81010201	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田 毅	4. 巻 11
2. 論文標題 ジョナサン・ウルフの公共政策の哲学について 『恵まれない境遇Disadvantage』を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 倫理創成研究	6. 最初と最後の頁 70-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81010228	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田 毅 (まとめ)	4. 巻 25
2. 論文標題 「種」とは何か：生物学の哲学の現場から論じる (ワークショップ報告)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アルケー (関西哲学会年報)	6. 最初と最後の頁 27-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 松田 毅	4. 巻 68
2. 論文標題 日本哲学会学協会シンポ「宗教と哲学」趣意文	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 哲学	6. 最初と最後の頁 92-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 11件)

1. 発表者名 Tsuyoshi MATSUDA
2. 発表標題 Duplicated Modalities in Leibnizian Theodicy as an Application of Analogical Thinking
3. 学会等名 1. Internationaler Leibniz-Kongress (国際学会)
4. 発表年 2023年 ~ 2024年

1. 発表者名 Tsuyoshi MATSUDA
2. 発表標題 Contingency in Leibniz 's Metaphysics seen from Shuzo Kuki 's Confrontation with it
3. 学会等名 1. Internationaler Leibniz-Kongress (国際学会)
4. 発表年 2023年 ~ 2024年

1. 発表者名 Tsuyoshi MATSUDA
2. 発表標題 Minakata Kumagus and Ishimure Michiko, Two legacies of Japanese environmental thoughts in the struggle of modernization
3. 学会等名 Deutsch-Japanische Gesellschaft in Bayern (招待講演)
4. 発表年 2022年 ~ 2023年

1. 発表者名 Tsuyoshi MATSUDA
2. 発表標題 Analogical Theology or Minakata's Buddhist Interpretation of Leibniz's God
3. 学会等名 Leibniz-Pionier der Oekumene in neuem Licht (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 松田毅
2. 発表標題 ライブニッツとアン・コンウェイ モナド概念をめぐって
3. 学会等名 京都哲学史研究会
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Tsuyoshi MATSUDA
2. 発表標題 "Origins" of time in Leibniz from his letters to De Volder
3. 学会等名 IV Congreso ibero americano Leibniz (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田毅
2. 発表標題 エニグマとしてのモナド
3. 学会等名 第72回西日本哲学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田毅
2. 発表標題 ライブニッツの疾病論 「水力・空気・火力の機械」の機能不全
3. 学会等名 12回ライブニッツ協会大会シンポ「ライブニッツとコロナ」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田毅
2. 発表標題 新型コロナウイルスの公衆衛生倫理 中長期視点から
3. 学会等名 日本リスク学会第33回年次大会企画セッション
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Matsuda Tsuyoshi
2. 発表標題 Leibniz 's relationalism of actual time
3. 学会等名 The Australasian Seminar in Early Modern Philosophy conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田毅
2. 発表標題 原因と責任 重層的把握に向かって
3. 学会等名 日本哲学会・公募ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MATSUDA Tsuyoshi
2. 発表標題 Radical democracy and reform of environmental policy in Japanese context
3. 学会等名 第24回世界哲学会議（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MATSUDA Tsuyoshi
2. 発表標題 The “ Gradualism ” of Causation and its Significance for Responsibility
3. 学会等名 8th international conference of Applied Ethics and Comparative Thought in East Asia ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田毅
2. 発表標題 ライブニッツの時間論 「現実的時間の関係主義」
3. 学会等名 第10回ライブニッツ協会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MATSUDA Tsuyoshi
2. 発表標題 The Grade of the Causation and the Responsibility focusing on “ Omission ”
3. 学会等名 第11回応用哲学国際会議（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MATSUDA Tsuyoshi
2. 発表標題 Leibniz on time from a monadological point of view
3. 学会等名 International workshop on the variety and unity of modern Germany philosophy from Leibniz, Kant and Schelling with Professor Martin Schonfeld (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田毅
2. 発表標題 南方熊楠の自然主義
3. 学会等名 第5回日中哲学フォーラム (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田毅
2. 発表標題 二つの形成的自然 カドワースとライプニッツの差異
3. 学会等名 第68回西日本哲学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tsuyoshi Matsuda
2. 発表標題 Traum und Regenbogen eine leibnizsche Betrachtung
3. 学会等名 Gottfried Wilhelm Leibniz Gesellschaft (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

## 〔図書〕 計9件

1. 著者名 松田毅・藤木篤・新川拓哉共編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 -
3. 書名 3 STEPシリーズ 応用哲学	

1. 著者名 啓蒙思想の百科事典編集委員会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善書店	5. 総ページ数 692
3. 書名 啓蒙思想の百科事典	

1. 著者名 松田毅	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 353
3. 書名 夢と虹の存在論 身体・時間・現実を生きる	

1. 著者名 Tsuyoshi Matsuda, Jonathan Wolff., Yanagawa Takashi ( eds. )	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 312
3. 書名 Risks and Regulation of New Technologies	

1. 著者名 伊藤邦武他編(共著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 世界哲学史VI	

1. 著者名 前川修・奥村弘編(分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸大学出版会	5. 総ページ数 367
3. 書名 マンガ / 漫画 / MANGA - 人文学の視点から	

1. 著者名 Wolff. J., Yanagawa. T., Matsuda. T (共同編集) など	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 350
3. 書名 Risks and Regulation of New Technologies	

1. 著者名 伊藤邦武編(コラム「時空をめぐる論争」執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 世界哲学史VI	

1. 著者名 ライプニッツ(翻訳)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 工作舎	5. 総ページ数 528
3. 書名 ライプニッツ著作集第2期第3巻『技術・医学・社会システム 豊饒な社会の実現に向けて』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<a href="https://www.leibnizstudy-tmatsuda.jp/">https://www.leibnizstudy-tmatsuda.jp/</a> 松田毅研究紹介
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 International workshop on the variety and unity of modern Germany philosophy from Leibniz, Kant and Schelling with Professor Martin Schonfeld	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関